

建設汚泥(産業廃棄物)の減量を可能にした、 環境対策型サクセスモール工法

新川 大一

SHINKAWA Hirokazu

ジオリード協会



1. 開発の経緯

泥濃式推進工法は、長距離・曲線施工において数多くの施工事例がありますが、切羽へ送る加泥材と掘削地山の混合攪拌された「高濃度安定液」が産業廃棄物となっていました。また、土質の変化により加泥材の配合や注入量を変更することもあり産業廃棄物は増え

る一方です。加泥材は目詰材を多く含んでおり、高比重・高粘性の混練りされた汚泥は振動篩だけでは分離することができませんでした。

しかしながらサクセスモール工法は、この建設汚泥の分級に着手し、機械装置を開発、システムを確立しました。

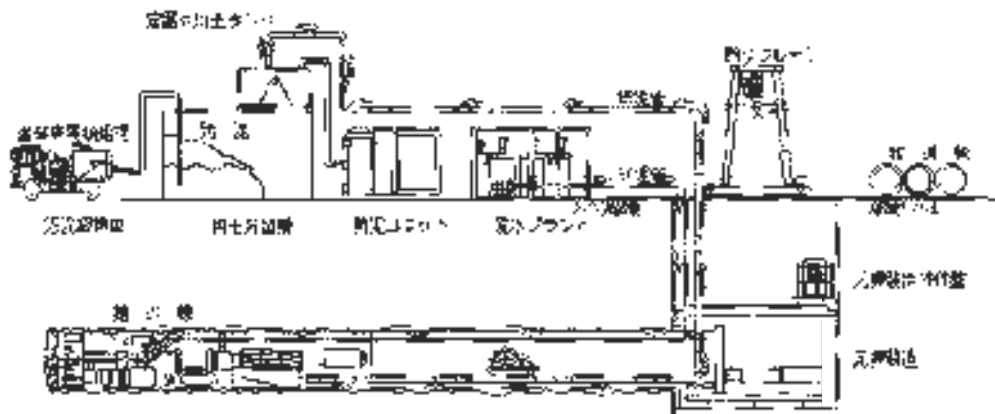


図-1 従来の泥濃式推進フロー

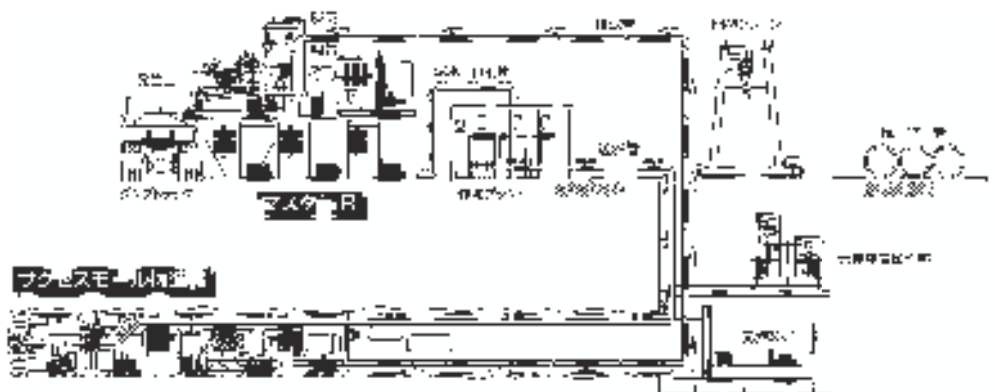


図-2 サクセスモール工法のフロー